

Management Club Report

Jan.2023/Vol.241

Monthly Opinion 《新しい成長の実現に向かう》

新しい2023年を迎えました。関東大震災が起きた1923年（大正12年）から丁度100年に当たります。地震国である我が国は、その後にもたびたび起きた大地震から多くのことを学び、被害を最小限に抑えるための対策を様々に講じてきました。今後も起こるであろう地震に対しては、国が講じるべき対策もあるでしょうが、私たち自身、それぞれの立場持ち場で冷静な対応がとれるように日頃より心がけなければと思います。

50年前の1973年（昭和48年）には、第4次中東戦争の勃発に端を発した、産油国による原油の生産制限と、それを受けてメジャー各社が供給制限と価格引き上げを実施するという『石油ショック』が全世界を覆いました。

そして今日、長引くコロナ禍や米中摩擦に加えてウクライナ戦争が勃発したことにより、50年前のオイルショックと似たような現象が世界的に起きています。わが国はその影響を強く受け、企業経営や個人生活に大きなマイナスを強いられるようになっていきます。水や電気を大量に使う歯科医院においては、材料費の高騰も含め、原価経費の増大は深刻さを増しているのではないのでしょうか。更に保健診療が主体となる医療機関は一般企業と異なり“値上げ”ができませんので、経営状況は更に厳しくなっていくと思われます。

そのような状況の中で歯科医院が生き残っていくためには、事態を前向きに捉え、新しい成長を目指していくしかありません。50年前には早々にオイルショックを切り抜け世界に飛躍していくことができたのですから、もう一度やってやろうじゃないですか。暗い世相の新年ですが、それだけに前向きに考えて参りましょう。そう、「きょうだれかをうれしくできた？」この精神です！

1

困難な状況を突破し新しい価値の創造に向かう

オイルショックを乗り越えた日本

50年前、我が国が世界に先駆けてオイルショックを乗り越えることができた要因は、何よりもその当時の日本という国が、人間に例えれば“育ちざかり”、“伸びざかり”の青春真っただ中にあったからだと思います。

風邪をひき多少熱があっても「走れば治る！」と言われ、無理やりクラブの練習に出させられ、本当に治ってしまった。そのようなことは二十歳前後当時には当たり前の日常茶飯事でしたが、それと同じで、国力が年を追うごとに増強され、更に成長を目指そうという経済力が充実していた時代にはオイルショックも蹴散らしてしまうほどのパワーが満ち溢れていたのでしょう。